

●個別学習

■児童生徒実践型

実践タイトル

児童自身がICT機器を操作し、場面と時刻をとらえ興味関心を持つ

本時のねらい

針の形や数の順序、規則的な数え方によって「30分」の時刻を読み取ることができるようになる。そこで、教師が自作したプレゼンテーション教材を実際に児童が操作しながら、時刻の読み取り方を理解したり、生活場面と時刻を組み合わせたとけいブックの作成を通して、時間への興味関心を持つことができるようにする。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

児童自身がとけいブックを作る方法や手順を確かめたり、活動への興味を持たせたりするために、教師作成のとけいブック（プレゼンテーション教材）を電子黒板に拡大表示し、実際にタッチパネルを操作しながら説明した。

PC教材

針の形や数の順序、規則的な数え方によって、とけいブックの時刻を読み取らせるために、教師作成のとけいブックを児童自らPCを操作しながら学習を進めた。

参考にしてほしいポイント

電子黒板を使うとプレゼンテーション教材を提示したり実際にタッチして操作することができ、児童の興味関心が高まったり見通しを持ちやすくなる。また、自作教材は、児童の特性に応じてカスタマイズ（作り替え）が手軽であり、習熟と思考の進化が期待できる。

学習の流れ(分)		主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の導入	0	○前時までのとけいブック作り（教師自作による）を振り返る。 ・PCに、教師作成のとけいブックを提示し、児童自身がとけいブックを作成することを確認する。 ・「〇時」のような正時でないことを確かめ、学習の見通しを持つ。 ○個別のめあてを確認する。 ・「何時何分」を読む児童。	・電子黒板（前時と比較し、教師作成のとけいブックの時刻には「〇時」だけでなく「〇時30分」があることに気付かせる）（写真1）
	10	・正時の針の形と位置を覚えて、場面と時計をマッチングする児童。	
展開	35	○作り方を示す手順図を見たり、PCを操作したりして、とけいブックを作る。 ・教師作成のとけいブックで、作り方の手順や使い方を確かめる。 ・児童がとけいブックを作る。（写真3）	・電子黒板 ・PC ・PC教材（教師作成のとけいブック）（写真2）
	45	○児童は自分の作ったとけいブックについて発表する。 ○次時は児童に校外学習に行く日のとけいブックを作ることを確認する。	
まとめ			



写真1：電子黒板で、とけいブック作りの手順を確認する

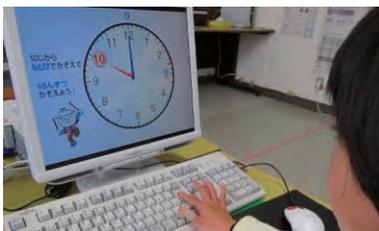


写真2：プログラムを操作しながら「何時30分」の読み方をとらえる



写真3：とらえた時刻を自分のとけいブックにはりつけて完成

児童生徒の反応

本学級は、平成23年度より電子黒板とPCを算数や国語、生活単元学習などの学習場面に活用している。また、個別に使用できるPCを教室に常備し、積極的に学習に活用している。本時においても電子黒板を見て活動への意欲を高めることができた。PCでとけいブック作りの続きをすると聞いて「やったー」の音が聞かれた。

活用効果

評価の観点	関心・意欲・態度・技能
具体的変容	<ul style="list-style-type: none"> ・手順と方法を電子黒板で示したり、児童自身がPCを操作して試しの活動を行ったりしたことで、学習への興味関心が高まり、見通しを持つことができた。 ・PCによる問題解決場面を個別に設定し、個々の特性を考慮した自作プログラム教材を用いたことで、得意な方法を繰り返しながら、時計の読み方を身に付けることができた。

実践の手応え

本単元は、生活場面とつなげて「何時何分」という時刻の読み方を身に付けることがねらいである。そのための児童自身によるとけいブック作りという目標達成型の活動は有効である。教師が、自作教材を電子黒板で提示したり、児童がPCを使って、時計の動き方を動的にとらえたりする活動は、興味関心を高め目的意識を持って取り組むのにとっても有効である。特に、児童がプレゼンテーションソフトウェアを操作しながら、色分けした文字盤上で短針のみの動きを見て、「短い針が10と11の間なので「まだ10時」のように、短針の位置を正しくとらえて「10時50分」などの時刻の読み方を理解することができた。